

森田としかず (前埼玉県議会議員)

昭和49年9月熊谷市久保島生まれ
 広瀬保育園、熊谷市立玉井小・中学校、埼玉県立熊谷高校、
 早稲田大学政経学部、カナダ・マギール大学留学、
 早稲田大学大学院博士課程を経て…
 28歳・県議選初挑戦(23票差で次点)
 30歳・訪問介護事業開始 32歳・県議選初当選
 33歳・介護施設上川原んち開設 36歳・県議選2期目当選
 38歳・衆議院議員選挙初挑戦(55,663票で次点)

〒360-0831熊谷市久保島1003-2
 tel.048-530-6001 fax.048-530-6002

morimoripress mori_morita 森田俊和

モリモリプレスとは!?

森田としかずのビジョンや政治に対する思い、地域活動の記録などを皆様にお伝えする広報紙です。
 ※バックナンバーはホームページからダウンロードしていただけます。



MORI MORI PRESS

2013 9 vol.28

~モリモリ随想録より~ その2 人はなぜ退屈するのか…?

もう数ヶ月前の話になりますが、夜のニュース番組を見ていたら大学時代の同級生である國分功一郎氏が出ていました。古館さんと一緒にコメンテーターとして出ていたのです。今は高崎経済大学で准教授をしているとのことでした。

その番組では東京の小平市における住民投票を扱っていました。森を伐採して都道を通す計画を進めるかどうかという住民投票が話題になっている最中でした。彼は市民の皆さんに対して、その住民投票に関心を持ってもらい、駅前などで都道の計画を撤回させるよう運動をしていたのです。哲学者の彼が、なぜあのようなことをしていたのか、私は興味を抱き、彼の本を読んでみることにしました。

彼の著作を探すうちに、『暇と退屈の倫理学』（朝日出版社）という本に出会いました。「退屈」な本なのかと思いきや、面白い内容でした。

人間は定住するようになって退屈するようになりました（図1）。それまでは定期的に移住しながら生活していたのですが、その時と比べると周りへの神経の使い方が全く違います。移住生活では移住した先で、危険はないか、水や食糧はどこにあるか、など常に張りつめて環境と向き合わなければなりません。しかし定住すると次第に周りに関心を払う必要が薄れてくるために、持てる能力を発揮する場面がなくなり、退屈するようになる、ということだそうです。

また彼は、過去の著名な哲学者の考えをたどりながら、

暇と退屈を類型化しています。まず、暇があり、退屈しているという分類（図2の①）。これはわかりやすいです。時間に余裕があり、特にやることもなく退屈しているということです。

そして次に、暇があっても、退屈していないという状況です（②）。これはかつての貴族など、暇の過ごし方を知っており、

暇を楽しむことができる、という場合です。また、暇がなく、よって退屈していないという分類（④）もわかりやすいです。仕事をしなければならず、やることがあるので、退屈していない、という場合です。わかりにくいのが、暇がないのに退屈するという状況（③）です。これはどういうことかという、例えば仕事があり、作業をしたり営業に回ったりして、暇はないのだけれども、何となく退屈しているということです。あるいは、本書で例に出されているのは、宴会の例です。お付き合いの宴会で、お酒を飲んだり、食事を楽しんだり、会話をしたり、と一見楽しんでいるように見える

図2 暇と退屈の類型

	暇がある	暇がない
退屈している	暇の過ごし方を知らない人①	日常にとらわれている人(やることはあるのに退屈)③
退屈していない	暇の過ごし方を知っている人(かつての貴族など)②	労働を余儀なくされる人④

『暇と退屈の倫理学』、114ページの表を一部修正

図1 退屈の誕生

食糧を求めて定期的に移動する生活
 (数百万年間)



気候変動により定住を余儀なくされる
 (約1万年前)



移動生活で活用された高い探査能力、環境適応能力を持て余し、退屈が生じる

裏面につづく▶

目で見る地域に根ざす活動記録



親子ふれあいプールまつり
 【8月3日】熊谷市江南地区の総合公園にて、NPO法人子育てネットワークがやの主催により行われました。天気が良く、絶好のプール日和でした!



行田市馬見塚にて自然観察会
 【8月25日】星川沿いにて行われた自然観察会に参加しました。キタミソウの自生地です。鳥や植物の紹介を丁寧にいただきました!